

2009/9/11

柏の景気情報（平成21年8月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成21年8月分）

○ 調査期間 : 平成21年8月19日 ~ 8月24日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	76	71.0%
建設	19	14	73.7%
製造	23	18	78.3%
卸・小売	43	29	67.4%
サービス	22	15	68.2%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成21年8月の調査結果のポイント】

◀業況DIは若干回復 依然として購買意欲の低迷があり▶

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲53.9(前月水準▲61.6)となり、マイナス幅が△7.7ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、サービス業▲40.0(同▲53.8)、製造業▲50.0(同▲62.5)、建設業▲57.1(同▲64.7)、卸小売業▲62.0(同▲62.9)である。

【建設業】では、「公共工事の件数が少ない」(一般土木建築工事業)、「8月が当社の決算月で、なんとか赤字決算だけは避けたいところ。衆議院の総選挙により、経済状況の変化があるのか、注目しているところです」(管工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「一部に売上の下げ止まりが見られるが、先が全く見通せない」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)、「ユーザーにより若干の増加はあるが、メインのユーザーでの減少が厳しい」(その他の鉄鋼業)、「9月より昇降機基準法改正により大手メーカーに有利になったため、中小企業への申請認定の遅れ、対応の遅れ等により、新規受注が制限され、八中に影響大。中小企業同業53社で組合を組織し対応中」(一般産業用機械設備製造業)などの声が上がってきた。

【卸小売業】では、「新型インフルエンザの罹患急増が心配です」(各種食料品小売業)、「訪問販売の影響で市況の乱れはすさまじいが、昨年の天井知らずの値上がりを思えば、薄利ではあるが精神的には落ち着ける。頑張らなくては」(燃料小売業)、「夏休み1000円高速代の影響か、遠出する人が増えて客数が落ちた」(書籍・文房具小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「車で来客数が減少している。予約客が中心でフリー客が減っている。ファミリー動向が多い時期なので、女性客が減少している」(食堂・レストラン)、「宴会等予約のお客様が無い時に従業員の出勤を控えさせたが、当日急きょ予約が入り、困ったことが今月はあった。宴会客単価は下がってしまっている。売り上げは下げ止まり、回復傾向にあるので、次月に期待したい」(酒場・ビヤホール)などのコメントがあった。

◎購買意欲低迷

主に建設業・工業から、「今夏の中元期を経て、大きな消費力を持っていた「団塊世代」の変化を痛感した。現役であった頃から比べると、中元ギフトの件数が激減しているように思われ、当然と言えば当然だが、特に目立っていたように思う。逆にその分を家族や自分たちの楽しみに使うという方向に行っているのではないか。景況の悪さにより消費はより内向きになっていると痛感する」(百貨店)、「今年の夏は日照不足に伴い、主要野菜の入荷減単価高となっている。果実は総体的には入荷平年並みだが、単価安の動きで取引。盛夏と違い、食物の選択に異変があり、景気低迷と合わせて、消費者の購買意欲もまだまだ低迷を続けており、また新型インフルエンザが心配される中、食にも気を使いながら、少量の満足感で動いている感がある」(食料・飲料卸売業)、「販売価格の下落、来街者の減少、消費者の買い控え、さらには天候不順に見舞われ、売上不振である」(その他の各種商品小売業)、「個人の消費額が減少し、客単価が下がっている。(10%程度)」(公衆浴場業)などの声が多

◎設備投資

各業種から、「公共工事については、前倒しで出ているが、小規模工事が多い。民間工事は景気が悪いので、どこの企業も設備投資を控えており、ほとんど無い。衆議院選挙の結果で政権交代がされた場合、今後の公共事業について、減少されるかが不安である」(土木工事業)、「設備投資の動きは出てきたが、相変わらず低価格で抑えられている。必要最低限の設備でしのいでいる状態」(電気工事業)、「増産のための設備投資を行う様子は同業者からも聞こえてこない。コスト要求が厳しい状況での受注になっており、生き延びるためのぎりぎりの状態が続いている。多くの関係業者も、継続して雇用調整助成金を利用」(その他の機械・同部分品製造業)、「生コンクリートのJIS改正が来年4月に有り、多額の設備投資が必要になる見込み。収益が悪化しているときに追い打ちをかけられる状況。このことを契機に全国的に廃業の動きが見られる」(生コンクリート製造業)などのコメントがあった。

◎売上不振

各業種から、「タスポ効果も6月までで前月より対前年同月比で売上減少。ただし客数は減っていない。商品価格値下げの影響が出ている」(その他の各種商品小売業)、「冷夏の影響を受けた衣料品が伸び悩んだことから、売上高は前年を下回る推移となった」(各種商品小売業)、「売上については単価減の影響から低調が続く。経費の見直しを続行し、利益確保を図る」

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
3月	▲68.4	▲78.5	▲73.3	▲60.0	▲70.5
4月	▲64.3	▲68.7	▲66.6	▲59.2	▲66.6
5月	▲59.7	▲66.6	▲58.8	▲58.6	▲56.2
6月	▲53.9	▲53.3	▲47.0	▲64.5	▲38.4
7月	▲61.6	▲64.7	▲62.5	▲62.9	▲53.8
8月	▲53.9	▲57.1	▲50.0	▲62.0	▲40.0
見通し	▲34.2	▲50.0	▲22.2	▲37.9	▲26.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成21年8月の業況についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲53.9(前月水準▲61.6)となり、マイナス幅が△7.7ポイント縮小した。

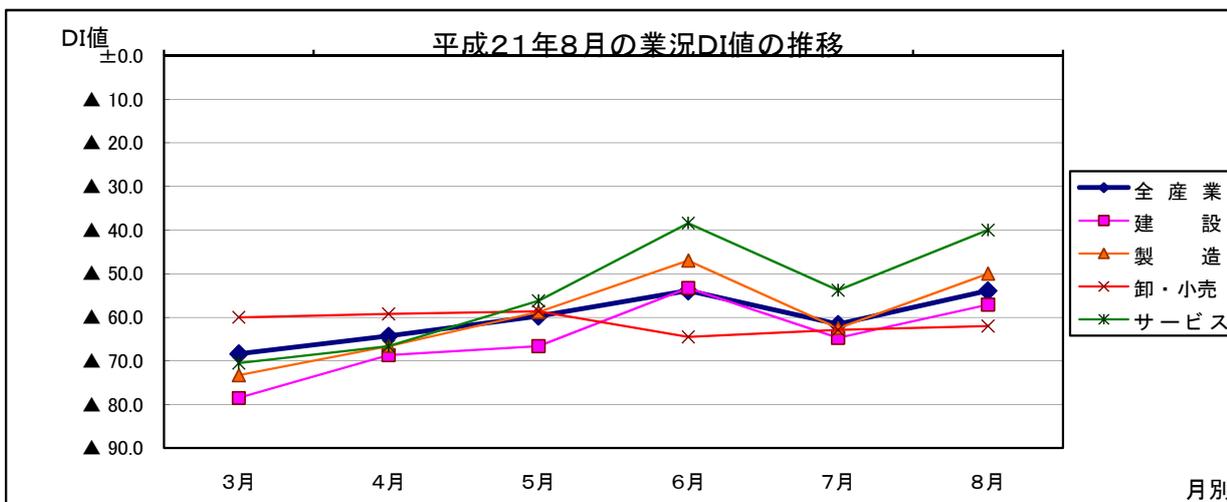
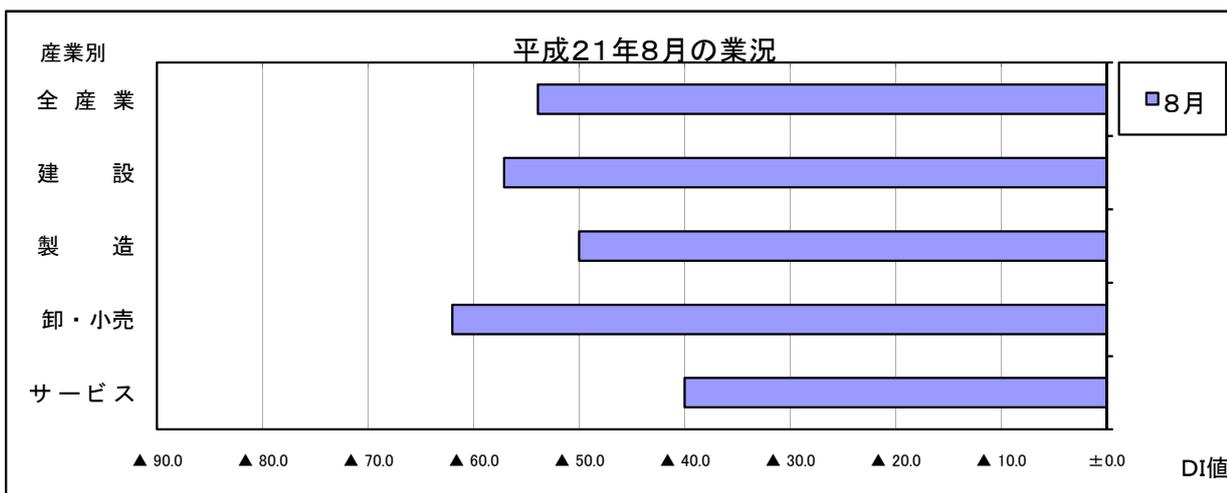
業種別では、前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、サービス業▲40.0(同▲53.8)、製造業▲50.0(同▲62.5)、建設業▲57.1(同▲64.7)、卸小売業▲62.0(同▲62.9)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲34.2(前月水準▲36.9)となり、マイナス幅が△2.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲26.6(同▲46.1)、卸小売業▲37.9(同▲44.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲50.0(同▲35.2)、製造業▲22.2(同▲18.7)である。

平成21年8月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成21年	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し	
	3月						9月~11月	8月~10月
全産業	▲68.4	▲64.3	▲59.7	▲53.9	▲61.6	▲53.9	▲34.2	(▲36.9)
建設	▲78.5	▲68.7	▲66.6	▲53.3	▲64.7	▲57.1	▲50.0	(▲35.2)
製造	▲73.3	▲66.6	▲58.8	▲47.0	▲62.5	▲50.0	▲22.2	(▲18.7)
卸・小売	▲60.0	▲59.2	▲58.6	▲64.5	▲62.9	▲62.0	▲37.9	(▲44.4)
サービス	▲70.5	▲66.6	▲56.2	▲38.4	▲53.8	▲40.0	▲26.6	(▲46.1)



【平成21年8月の売上についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲64.4(前月水準▲56.1)となり、マイナス幅が▲8.3ポイント拡大した。

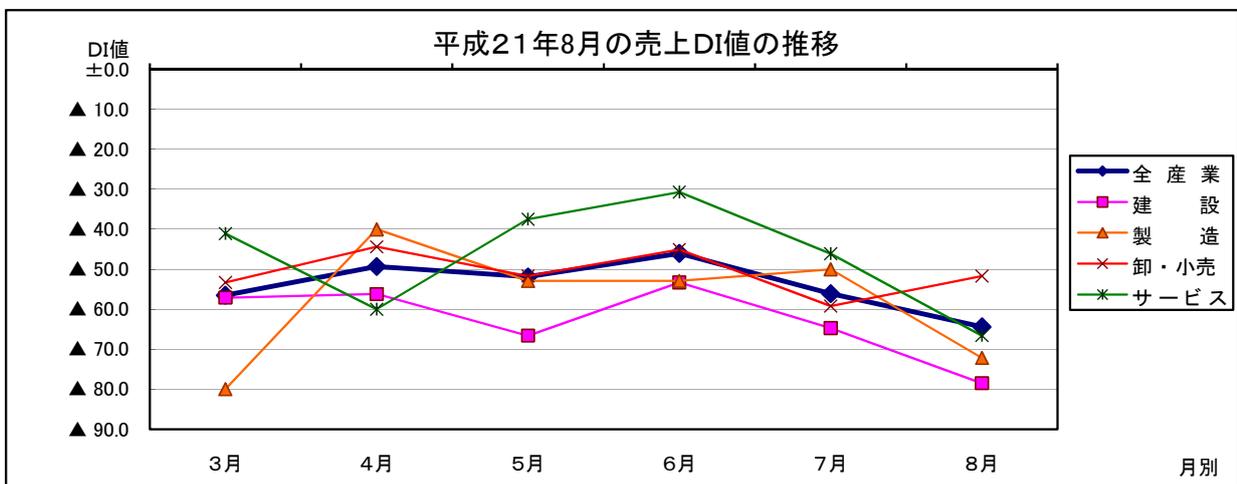
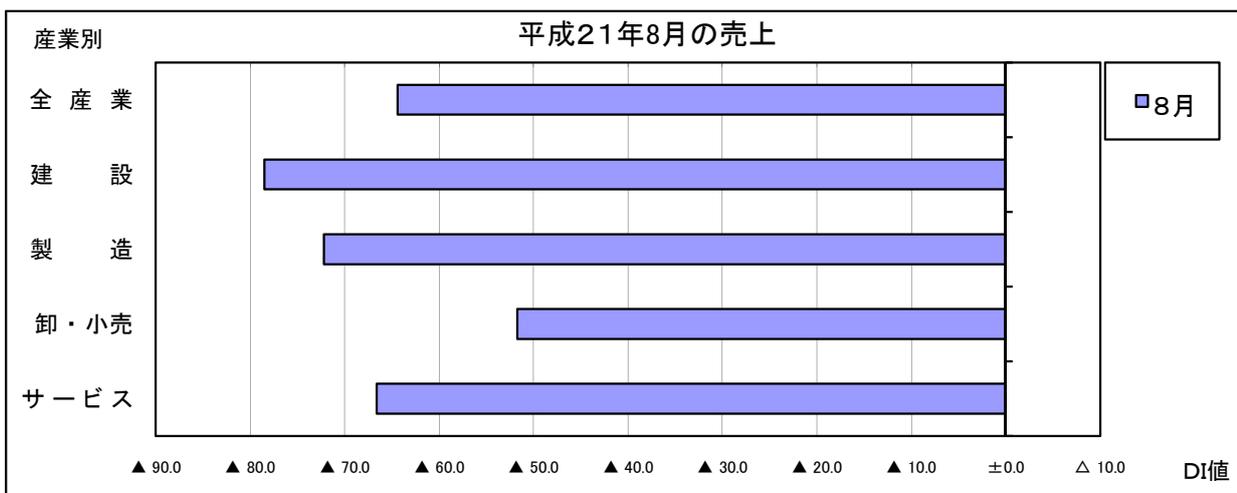
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲51.7(同▲59.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲72.2(同▲50.0)、サービス業▲66.6(同▲46.1)、建設業▲78.5(同▲64.7)であり、特に、製造業はマイナス幅が▲22.2ポイント、サービス業はマイナス幅が▲20.5ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23.6(前月水準▲26.0)となり、マイナス幅が△2.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲6.8(同▲25.9)、製造業▲22.2(同▲31.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲57.1(同▲23.5)、サービス業▲26.6(同▲23.0)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲33.6ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成21年8月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲56.5	▲49.3	▲51.9	▲46.0	▲56.1	▲64.4	▲23.6(▲26.0)
建設	▲57.1	▲56.2	▲66.6	▲53.3	▲64.7	▲78.5	▲57.1(▲23.5)
製造	▲80.0	▲40.0	▲52.9	▲52.9	▲50.0	▲72.2	▲22.2(▲31.2)
卸・小売	▲53.3	▲44.4	▲51.7	▲45.1	▲59.2	▲51.7	▲6.8(▲25.9)
サービス	▲41.1	▲60.0	▲37.5	▲30.7	▲46.1	▲66.6	▲26.6(▲23.0)



【平成21年8月の採算についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲55.2(前月水準▲63.0)となり、マイナス幅が△7.8ポイント縮小した。

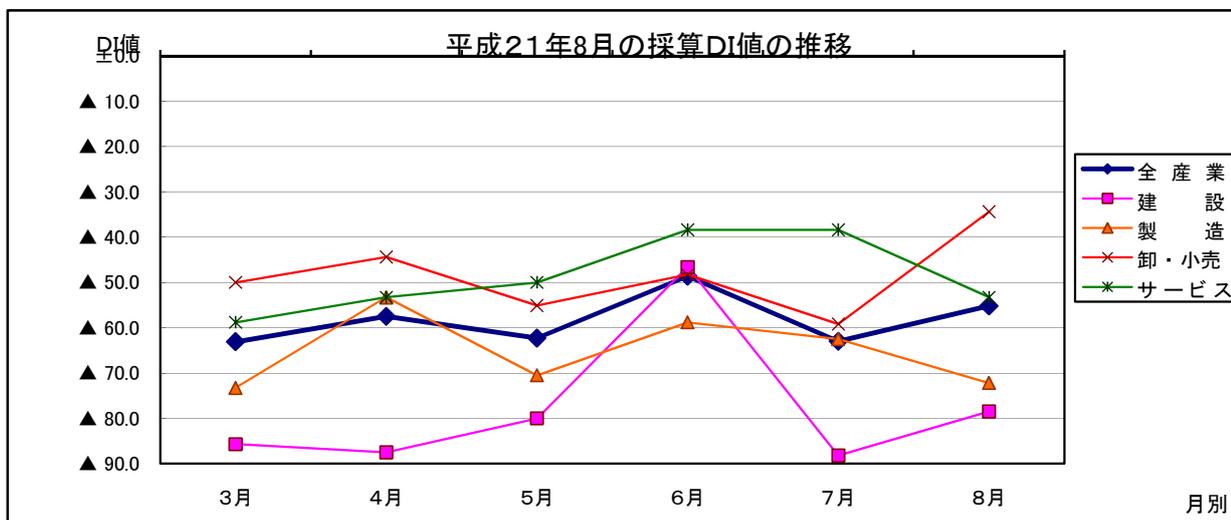
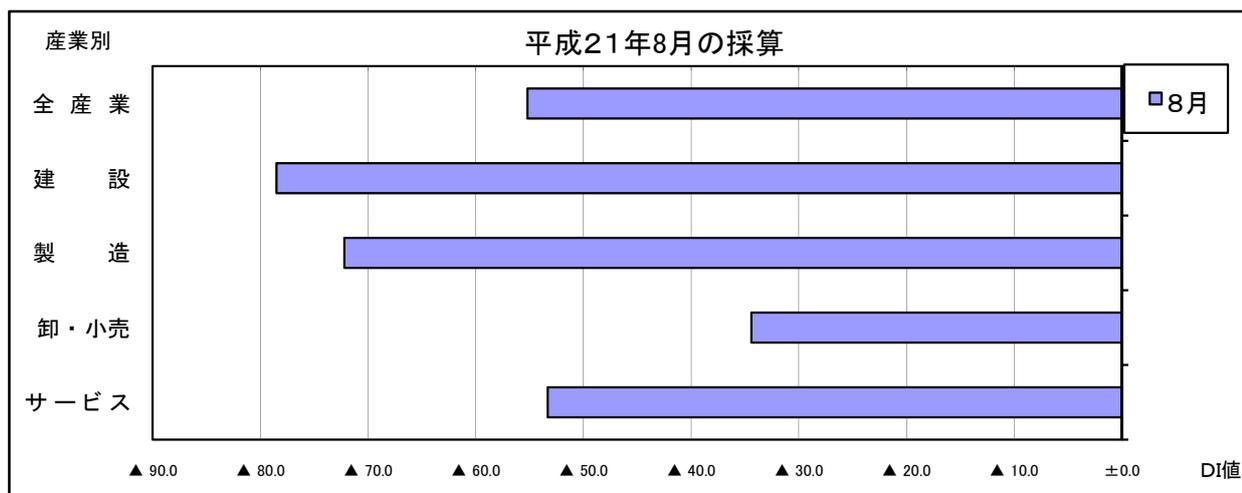
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲34.4(同▲59.2)、建設業▲78.5(同▲88.2)であり、特に、卸小売業はマイナス幅が△24.8ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲53.3(同▲38.4)、製造業▲72.2(同▲62.5)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲32.8(前月水準▲41.0)となり、マイナス幅が△8.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲27.5(同▲48.1)、製造業▲22.2(同▲31.2)であり、特に、卸小売業はマイナス幅が△20.6ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲23.0)、建設業▲57.1(同▲52.9)である。

平成21年8月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月～11月(8月～10月)
全産業	▲63.1	▲57.5	▲62.3	▲48.6	▲63.0	▲55.2	▲32.8(▲41.0)
建設	▲85.7	▲87.5	▲80.0	▲46.6	▲88.2	▲78.5	▲57.1(▲52.9)
製造	▲73.3	▲53.3	▲70.5	▲58.8	▲62.5	▲72.2	▲22.2(▲31.2)
卸・小売	▲50.0	▲44.4	▲55.1	▲48.3	▲59.2	▲34.4	▲27.5(▲48.1)
サービス	▲58.8	▲53.3	▲50.0	▲38.4	▲38.4	▲53.3	▲33.3(▲23.0)



【平成21年8月の仕入単価についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.5(前月水準▲4.1)となり、マイナス幅が▲2.4ポイント拡大した。

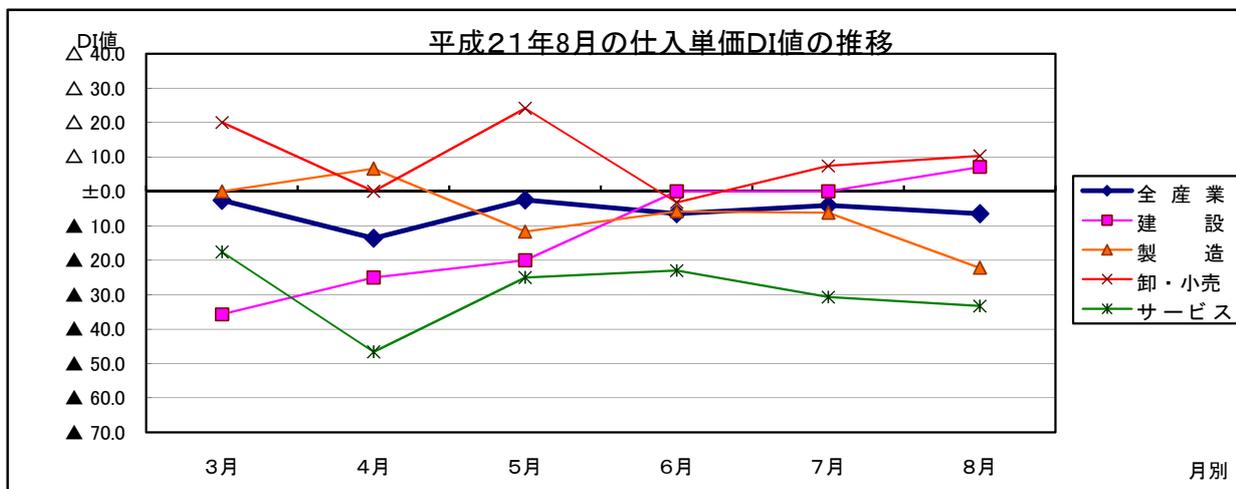
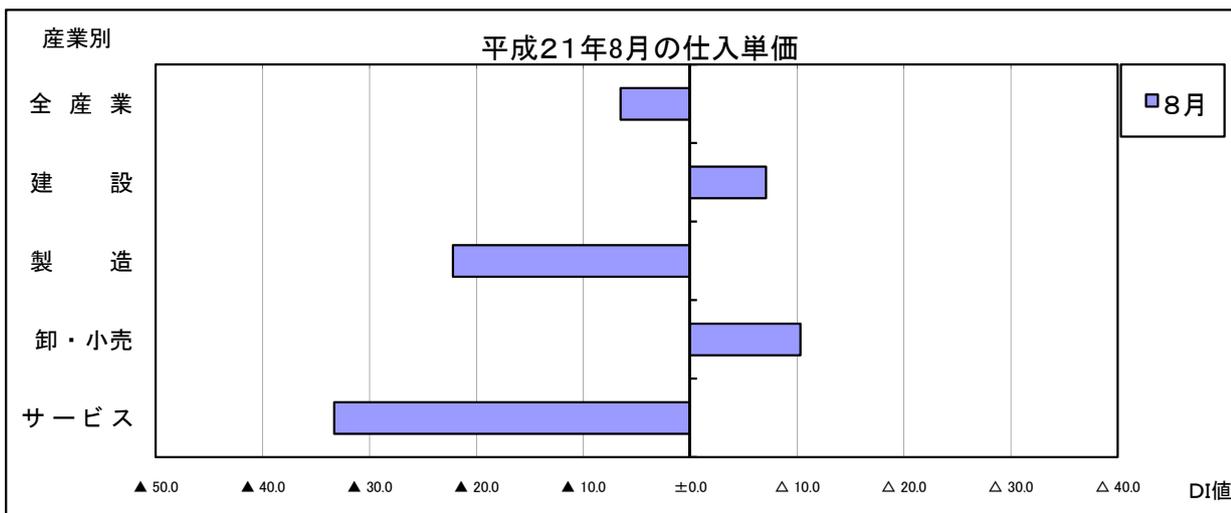
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△7.1(同±0.0)、卸小売業△10.3(同△7.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲22.2(同▲6.2)、サービス業▲33.3(同▲30.7)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.7(前月水準▲10.9)となり、マイナス幅が▲4.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲26.6(同▲38.4)、建設業▲7.1(同▲11.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲17.2(同±0.0)、製造業▲11.1(同▲6.2)であり、特に、サービス業はマイナス幅が▲17.2ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成21年8月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲2.6	▲13.6	▲2.5	▲6.5	▲4.1	▲6.5	▲15.7(▲10.9)
建設	▲35.7	▲25.0	▲20.0	±0.0	±0.0	△7.1	▲7.1(▲11.7)
製造	±0.0	△6.6	▲11.7	▲5.8	▲6.2	▲22.2	▲11.1(▲6.2)
卸・小売	△20.0	±0.0	△24.1	▲3.2	△7.4	△10.3	▲17.2(±0.0)
サービス	▲17.6	▲46.6	▲25.0	▲23.0	▲30.7	▲33.3	▲26.6(▲38.4)



向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.5(前月水準▲16.4)となり、マイナス幅が△5.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲27.7(同▲50.0)、建設業▲7.1(同▲17.6)であり、特に、製造業はマイナス幅が△22.3ポイントと大幅に縮小する見通しである。変らない見通しの業種は、建設業▲17.6(同▲17.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△20.0(同△23.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は卸小売業▲17.2(同+14.8)である。

	平成21年						
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月～11月(8月～10月)
全産業	▲ 7.8	▲ 8.2	▲ 14.2	▲ 15.7	▲ 13.6	▲ 10.5	▲ 10.5 (▲ 16.4)
建設	±0.0	▲ 6.2	▲ 6.6	▲ 20.0	▲ 11.7	▲ 14.2	▲ 7.1 (▲ 17.6)
製造	▲ 53.3	▲ 33.3	▲ 41.1	▲ 41.1	▲ 43.7	▲ 33.3	▲ 27.7 (▲ 50.0)
卸・小売	▲ 10.0	▲ 11.1	▲ 17.2	▲ 9.6	▲ 14.8	▲ 10.3	▲ 17.2 (▲ 14.8)
サービス	△ 29.4	△ 20.0	△ 12.5	△ 7.6	△ 23.0	△ 20.0	△ 20.0 (△ 23.0)

	平成21年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月～11月 (8月～10月)
全産業	▲ 46.0	▲ 36.9	▲ 37.6	▲ 32.8	▲ 39.7	▲ 34.2	▲ 26.3 (▲ 28.7)
建設	▲ 42.8	▲ 50.0	▲ 46.6	▲ 20.0	▲ 41.1	▲ 42.8	▲ 28.5 (▲ 35.2)
製造	▲ 60.0	▲ 33.3	▲ 35.2	▲ 41.1	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 22.2 (▲ 31.2)
卸・小売	▲ 36.6	▲ 25.9	▲ 24.1	▲ 29.0	▲ 37.0	▲ 31.0	▲ 24.1 (▲ 22.2)
サービス	▲ 52.9	▲ 46.6	▲ 56.2	▲ 46.1	▲ 30.7	▲ 33.3	▲ 33.3 (▲ 30.7)

業種	売上高		前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
	前年比	先行き								
全業種	▲ 64.4	▲ 23.6	▲ 55.2	▲ 32.8	▲ 6.5	▲ 15.7	▲ 10.5	▲ 10.5	▲ 10.5	▲ 10.5
建設	▲ 78.5	▲ 57.1	▲ 78.5	▲ 57.1	△ 7.1	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 7.1
製造	▲ 72.2	▲ 22.2	▲ 72.2	▲ 22.2	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 33.3	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 27.7
卸・小売	▲ 51.7	▲ 6.8	▲ 34.4	▲ 27.5	△ 10.3	▲ 17.2	▲ 10.3	▲ 17.2	▲ 10.3	▲ 17.2
サービス	▲ 66.6	▲ 26.6	▲ 53.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 26.6	△ 20.0	▲ 33.3	△ 20.0	△ 20.0

業種	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 53.9	▲ 34.2	▲ 34.2	▲ 26.3
建設	▲ 57.1	▲ 50.0	▲ 42.8	▲ 28.5
製造	▲ 50.0	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 22.2
卸・小売	▲ 62.0	▲ 37.9	▲ 31.0	▲ 24.1
サービス	▲ 40.0	▲ 26.6	▲ 33.3	▲ 33.3

【平成21年8月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	公共工事の件数が少ない 公共工事については、前倒しで出ているが、小規模工事が多い。民間工事は景気が悪いと、どこの企業も設備投資を控えており、ほとんど無い。衆議院選挙の結果で政権交代がされた場合、今後の公共事業について、減少されるかが不安である。	公共工事減少 公共工事規模縮小 設備投資抑制 政権交代	一般土木建築工事業 土木工事業（舗装、しゅんせつを除く）
	8月が当社の決算月で、なんとか赤字決算だけは避けたいところ。衆議院の総選挙により、経済状況の変化があるのか、注目しているところ。	決算月 衆議院選挙	管工事業（さく井を除く）
	設備投資の動きは出てきたが、相変わらず低価格で抑えられている。必要最低限の設備でしのいでいる状態。 一部に売上の下げ止まりが見られるが、先が全く見通せない	設備投資抑制	電気工事業
	ユーザーにより若干の増加はあるが、メインのユーザーでの減少が厳しい。 9月より昇降機基準法改正により大手メーカーに有利になったため、中小企業への申請認定の遅れ、対応の遅れ等により、新規受注が制限され、八中に影響大。中小企業同業53社で組合を組織し対応中。 増産のための設備投資を行う様子は同業者からも聞こえてこない。コスト要求が厳しい状況での受注になっており、生き延びるためのぎりぎりの状態が続いている。多くの関係業者も、継続して雇用調整助成金を利用。	売上下げ止り 先行き不透明 ユーザー減少	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業 その他の鉄鋼業
生コンクリートのJIS改正が来年4月に有り、多額の設備投資が必要になる見込み。収益が悪化しているときに追い打ちをかけられる状況。このことを契機に全国的に廃業の動きが見られる。	昇降機基準法改正 新規受注への影響 組合組織 設備投資制限 コスト要求 厳しい業況 雇用調整助成金	一般産業用機械設備製造業 その他の機械・同部分品製造業	
今夏の中元期を経て、大きな消費力を持っていた「団塊世代」の変化を痛感した。現役であった頃から比べると、中元ギフトの件数が激減しているように思われ、当然と言えば当然だが、特に目立っていたように思う。逆にその分を家族や自分たちの楽しみに使うという方向に行っているのではないかと。景況の悪さにより消費はより内向きになっていると痛感する。 新型インフルエンザの罹患急増が心配です。 今年の夏は日照不足に伴い、主要野菜の入荷減単価高となっている。果実は総体的には入荷平年並みだが、単価安の動きで取引。盛夏と違い、食物の選択に異変があり、景気低迷と合わせて、消費者の購買意欲もまだまだ低迷を続けており、また新型インフルエンザが心配される中、食にも気を使いながら、少量の満足感で動いている感がある。 タスポ効果も6月までで前月より対前年同月比で売上減少。ただし客数は減っていない。商品価格値下げの影響が出ている。	設備投資 収益悪化	生コンクリート製造業	
卸小売	今夏の中元期を経て、大きな消費力を持っていた「団塊世代」の変化を痛感した。現役であった頃から比べると、中元ギフトの件数が激減しているように思われ、当然と言えば当然だが、特に目立っていたように思う。逆にその分を家族や自分たちの楽しみに使うという方向に行っているのではないかと。景況の悪さにより消費はより内向きになっていると痛感する。 新型インフルエンザの罹患急増が心配です。 今年の夏は日照不足に伴い、主要野菜の入荷減単価高となっている。果実は総体的には入荷平年並みだが、単価安の動きで取引。盛夏と違い、食物の選択に異変があり、景気低迷と合わせて、消費者の購買意欲もまだまだ低迷を続けており、また新型インフルエンザが心配される中、食にも気を使いながら、少量の満足感で動いている感がある。 タスポ効果も6月までで前月より対前年同月比で売上減少。ただし客数は減っていない。商品価格値下げの影響が出ている。	団塊世代 中元商品減少 購買意欲低迷 景況悪化 消費の内向き 新型インフルエンザ	百貨店 各種食料品小売業 食料・飲料卸売業
	訪問販売の影響で市況の乱れはすさまじいが、昨年の天井知らずの値上がりやを思えば、薄利ではあるが精神的には落ち着ける。頑張らなくては。	日照不足 野菜入荷減単価高 購買意欲低迷 新型インフルエンザ	その他の各種商品小売業（従業者が常時50人未満のもの）
	販売価格の下落、来街者の減少、消費者の買い控え、さらには天候不順に見舞われ、売上不振である。	タスポ効果 売上減少 客数横ばい 価格値下げ	その他の各種商品小売業（従業者が常時50人未満のもの）
	8月度はイベント開催をしたため、入店客数は前年を大きく上回る推移となったが、冷夏の影響を受けた衣料品が伸び悩んだことから、売上高は前年を下回る推移となった。週末は集客イベントが好評で集客がはかれたことから、売上にもつながった。中旬以降お買い上げ抽選会が終了したこともあり、売上高は低調な推移となっている。月末にかけても週末イベントを開催することから、接客を強化して売上に繋げていく。 夏休み1000円高速代の影響か、遠出する人が増えて客数が落ちた	訪問販売 市況の乱れ 販売価格下落 買い控え 売上不振 集客イベント 冷夏 衣料品不振 売上高低調 接客強化	燃料小売業（ガソリンスタンド含まず） その他の各種商品小売業（従業者が常時50人未満のもの） 各種商品小売業
		ETC割引 車の客数減少	書籍・文具具小売業

【平成21年8月の業種別業界内トピックス】

サービス	車でも来客数が減少している。予約客が中心でフリー客が減っている。ファミリー動向が多い時期なので、女性客が減少している。	車の客数減少 フリー客減少 女性客減少 ファミリー動向	食堂・レストラン
	宿泊は依然ビジネス客が低調。9月の予約率で復調の兆し有り。宴会についても企業利用が低調。9月の予約で復調の兆し有り。但し売上については単価減の影響から低調が続く。経費の見直しを続行し、利益確保を図る。	宿泊低調 企業利用減少 経費見直し	ホテル
	個人の消費額が減少し、客単価が下がっている。(10%程度)	個人消費減少 客単価低下	公衆浴場業
	宴会等予約のお客様が無い時に従業員の出勤を控えさせたが、当日急ぎょ予約が入り、困ったことが今月はあった。宴会客単価は下がってしまっている。売り上げは下げ止まり、回復傾向にあるので、次月に期待し	出勤調整 客単価低下	酒場・ピヤホール

◎購買意欲低迷

- ・ 今夏の中元期を経て、大きな消費力を持っていた「団塊世代」の変化を痛感した。現役であった頃から比べると、中元ギフトの件数が激減しているように思われ、当然と言えば当然だが、特に目立っていたように思う。逆にその分を家族や自分たちの楽しみに使うという方向に行っているのではないか。景況の悪さにより消費はより内向きになっていると痛感する。百貨店
- ・ 今年の夏は日照不足に伴い、主要野菜の入荷減単価高となっている。果実は総体的には入荷平年並みだが、単価安の動きで取引。盛夏と違い、食物の選択に異変があり、景気低迷と合わせて、消費者の購買意欲もまだまだ低迷を続けており、また新型インフルエンザが心配される中、食にも気を使いながら、少量の満足感で動いている感がある。食料・飲料卸売業
- ・ 販売価格の下落、来街者の減少、消費者の買い控え、さらには天候不順に見舞われ、売上不振である。その他の各種商品小売業
- ・ 個人の消費額が減少し、客単価が下がっている。(10%程度) 公衆浴場業

◎設備投資

- ・ 公共工事については、前倒しで出ているが、小規模工事が多い。民間工事は景気が悪いため、どこの企業も設備投資を控えており、ほとんど無い。衆議院選挙の結果で政権交代がされた場合、今後の公共事業について、減少されるかが不安である。土木工事業
- ・ 設備投資の動きは出てきたが、相変わらず低価格で抑えられている。必要最低限の設備でしのいでいる状態。電気工事業
- ・ 増産のための設備投資を行う様子は同業者からも聞こえてこない。コスト要求が厳しい状況での受注になっており、生き延びるためのぎりぎりの状態が続いている。多くの関係業者も、継続して雇用調整助成金を利用。その他の機械・同部分品製造業
- ・ 生コンクリートのJIS改正が来年4月に有り、多額の設備投資が必要になる見込み。収益が悪化しているときに追い打ちをかけられる状況。このことを契機に全国的に廃業の動きが見られる。生コンクリート製造業

◎売上不振

- ・ タスポ効果も6月までで前月より対前年同月比で売上減少。ただし客数は減っていない。商品価格値下げの影響が出ている。その他の各種商品小売業
- ・ 冷夏の影響を受けた衣料品が伸び悩んだことから、売上高は前年を下回る推移となった。各種商品小売業
- ・ 但し売上については単価減の影響から低調が続く。経費の見直しを続行し、ホテル利益確保を図る。ホテル

平成21年8月のCCI LOBOとの比較

- 【業況DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲53.9に対し、「CCI-LOBO」が▲59.6で、柏の方がマイナス幅が5.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業で、いずれもマイナス幅が10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業。
- 【売上DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲64.4に対し、「CCI-LOBO」が▲57.9で、柏の方がマイナス幅が6.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲55.2に対し、「CCI-LOBO」が▲57.0で、柏の方がマイナス幅が1.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・製造業。サービス業で、建設業・製造業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.5に対し、「CCI-LOBO」が▲10.5で、柏の方がマイナス幅が4.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業・卸小売業であり、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・サービス業でいずれも10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.5に対し、「CCI-LOBO」が▲19.4で、柏の方がマイナス幅が8.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業。
- 【資金繰りDI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲34.2に対し、「CCI-LOBO」が▲39.9で、柏の方がマイナス幅が5.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種においてよくなっており、製造業は10ポイント以上良い。

平成21年8月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI > 50	好調 50 > DI > 25	まあまあ 25 > DI > 0	不振 0 > DI > -25	極めて不振 DI < -25

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 53.9	 57.1	 50.0	 62.0	 40.0
CCI LOBO	 59.6	 56.3	 62.9	 60.7	 56.3

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 64.4	 78.5	 72.2	 51.7	 66.6
CCI LOBO	 57.9	 52.0	 62.6	 61.4	 52.7

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 55.2	 78.5	 72.2	 34.4	 53.3
CCI LOBO	 57.0	 56.8	 61.8	 57.7	 52.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 6.5	 7.1	 22.2	 10.3	 33.3
CCI LOBO	 10.5	 16.8	 6.1	 6.9	 19.4

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 10.5	 14.2	 33.3	 10.3	 20.0
CCI LOBO	 19.4	 25.4	 29.2	 13.3	 12.3

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 34.2	 42.8	 33.3	 31.0	 33.3
CCI LOBO	 39.9	 43.6	 48.7	 35.9	 33.4

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(8月速報)

調査期間：平成21年8月18日～24日

調査対象：全国の407商工会議所が2589業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、依然厳しい水準ながらマイナス幅は6カ月連続で縮小

8月の業況をみると、全産業合計の業況DIは59.6と、前月に比べ+4.0ポイントとなり、6カ月連続でマイナス幅が縮小した。しかし、マイナス幅の縮小は、業況判断が「悪化」から「不変」への変更が主因であり、実態は低水準の横ばい状態が続いているとみられる。産業別にみると、DI値のマイナス幅はすべての業種で縮小した。

景気に関する声、当面する問題としては、各地からは、公共工事については、前倒し発注の効果が出てきている一方で、下請けの多い中小・零細企業への波及が十分に進んでいないとの声が多い。また、競争激化による低価格受注や販売単価の低下を訴える声がかなり多いほか、駿河湾の地震、大雨などの外的要因による消費への悪影響を指摘する声が多く寄せられている。先行きについては、雇用情勢の悪化や設備投資の減速など需要低迷が続く、売上の長期停滞から、継続的な資金繰りが限界に達し、借入金の返済や新規借入れが困難な状況になりつつあるとの声が多くなっている。また、秋以降の新型インフルエンザの感染拡大

大による景気の下振れを懸念する声も強い。

【建設業】「公共工事の前倒し効果があり、現在、発注がピークを迎えている」（一般工事業）、「公共工事前倒し効果で売上は回復基調にあるが、競争が激しく収益性の向上が見込めない」（土木工事業）、「住宅着工数は前年度より4～5%程度落ち込み、厳しい状況」（建築事業）

【製造業】「家電部品製造関連では、エコポイント制度の影響による冷蔵庫の買換需要があり順調に推移」（自動車・同附属品製造業）、「経済対策の効果で小型車が好調、売上は下げ止まりつつある。設備投資については今の時点では考えられない」（金属加工機械製造業）、「操業時間調整が継続中で、雇用環境も厳しい」（一般産業用機械製造業）

【卸売業】「低価格製品の売上が多くなっている」（各種商品卸売業）、「地震による東北高速道路閉鎖の影響で売上減」（農畜産物卸売業）、「売上は前月比で横ばい」（工）と低水準が続く」（鉱物金属材料卸売業）

【小売業】「高速道路料金値下げの影響によりお盆期間は土産関連の売上が桁アップした」（百貨店）、「天候不順で苦しい夏商戦」（その他の小売業）、「資金を借りたくても返すあてがない状況」（商店街）

【サービス業】「アクアライン料金

値下げ効果があったが、客単価は低い（食堂・レストラン）、「天候不順の影響により売上減少。野菜類の仕入れ単価も上昇」（他の一般飲食店）、「新型インフルエンザの影響で利用者が減少した」（旅館）

八月のキーワード

雇用情勢の悪化

依然低調な受注、売上など業況悪化の影響から、雇用の過剰感に関する声が寄せられている。製造業からは、「厳しい状況が続く、従業員の過剰状態が続いている」（赤穂・金属加工機械製造業）、「操業時間調整が継続中で、雇用環境も厳しい」（新居浜・一般産業用機械製造業）、「求人を用意する企業が激減」（唐津・その他の機械製造業）、「稼働日は週3日と休業日が増加」（豊橋・自動車・同附属品製造業）、「民間航空機関係は受注が減少し、採算は厳しい状況。コストダウンと雇用の過剰が大きな問題」（各務原・他の輸送用機器製造業）、「小売業からは、「営業時間を短縮する店が増えた」（福山・商店街）、「サービス業からは、「受注契約価格は下がっても顧客を失うことがないよう、従業員の質の向上のため今まで以上に研修会等を開きモチベーションとスキルのアップに尽力」（京都・建物サービス業）、「6月に申請した雇用調整助成金の入金を待ち構えている」（深谷・旅館）などの声も寄せ

られている。

経済対策の効果

公共工事の前倒し、環境対応車の購入助成、エコポイント制度など政府が打ち出した経済対策の効果も指摘する声も寄せられている。建設業からは、「公共工事の前倒し発注が多くなった」（倉吉・一般工事業）、「公共工事は一部発注が開始したが依然低調」（柳井・建築事業）、「経済対策の効果が徐々に始めている」（市原・建築事業）、「製造業からは、「高速道路料金値下げ効果で、売上は増加傾向」（水戸・パン・菓子製造業）、「エコポイント制度の影響で売上に回復の兆し」（さいたま・ブリキ等製造業）、「小売業からは、「プレミアム商売の波及効果を期待」（横須賀・商店街）、「エコポイント制度の影響で家電の販売が好調」（新宮・商店街）などの声も寄せられた。

一方、「公共工事の早期発注に期待」（徳島・一般工事業）、「公共工事がまったくない」（直方・一般工事業）といった声もあった。

広がる低価格化

採算を度外視したかのような低価格受注や販売単価の低下等について訴える声が多く寄せられた。建設業からは、「低価格入札が続く厳しい状況」（札幌・一般工事業）、「製造業からは、「低価格志向が進んでいるが製造コストは変わらないため下請けにそのしわ寄せ

がきている」（酒田・織物外衣製造業）、「若者向けの低価格住宅が建ち始め、地産業者が苦戦」（山形・製材木製品製造業）、「小売業からは、「通常価格より相対的に低価格で販売しているが売れない。必要なものしか買わない」という消費行動が目につく」（札幌・百貨店）、「消費者の節約志向が強まり衣料品や高額商品の売上が不振」（豊橋・百貨店）、「客単価のダウンが続いている。夏期（繁忙期）による値上げは通じない」（越前・旅館）といった声も寄せられた。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
3月	▲72.8	▲72.1	▲73.5	▲70.5	▲75.5	▲70.2
4月	▲70.4	▲70.9	▲74.4	▲66.7	▲70.9	▲66.9
5月	▲65.7	▲71.6	▲69.1	▲66.2	▲66.2	▲57.7
6月	▲64.2	▲66.7	▲70.6	▲61.8	▲63.4	▲57.3
7月	▲63.6	▲61.2	▲65.7	▲65.5	▲65.1	▲60.3
8月	▲59.6	▲56.3	▲62.9	▲61.1	▲60.7	▲56.3
見通し	▲46.3	▲46.9	▲42.5	▲45.8	▲50.2	▲45.4

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI